

霧ヶ峰基金会報

2011年10・11月号(通算44号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0024 長野県諏訪郡下諏訪町五宮 6371 番地 3 ハイツルミエール A 棟 102号

TEL 090 9668 3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



豊饒の祈り・御射山祭

10年も霧ヶ峰高原に通ってぶらぶらしていたのに御射山祭を見に行ったのは初めてでした。諏訪大社の摂社は約12,000社あるとも云われています。それら多くの神社では『穂屋祭』などと呼ばれ7月27日を例祭日とし神事が行われ、ススキの茎の箸でお粥をいただく習わしがあり、無病息災や子供の丈夫な成長を願うと言われるようです。

俳人松尾芭蕉は『更科紀行』の旅の後、江戸において信濃の「雪の降る」頃の様子を思い『雪ちるや穂屋の薄の刈り残し』との句を残しています。

さて、当日の旧御射山の例祭では、宮坂宮司さまは「鎌倉・室町」時代からの慣わしで、年4回あり「春は五穀豊穰を願う御狩神事、秋は山の幸を神に捧げ豊作を祈る農神事」と説明されました。

例祭は7月27日から4日間に渡って行われたものであるが、現代では1日2日の準備と祈願で済ませているところが多いようです。

今では期間が短縮されたり、行事も時代に合わせて大分簡素化されてしまっているようすではあるものの、800年以上も続けられている神事の歴史の重みを感じる祭典を拝見いたしました。(N)

【報告】 ニッコウキスゲをめぐるツアー

今年はニッコウキスゲの開花に恵まれ、車山肩のニッコウキスゲ群落をメインに、涼風の中、霧ヶ峰を散策するツアーを催行することができました。その様子をご紹介します。

ひとつは、半年前からご予約をいただきました山ガール&山ボーイさまご一行です。

ツアー終了後にお聞きしたのですが、ご依頼のあった山ガールさまは、長野県外で環境省主催のエコツアーリズム大賞受賞団体のツアーに参加した経験があり、今回は長野県での受賞団体のツアーに期待し、ツアーをご依頼いただきました。

お陰さまでツアーはご好評をいただき、今後の自信と励みになりました。

ありがとうございました。



2つめは毎年ご依頼をいただいております、蓼科東急リゾート様のご一行さまのツアーです。

車山肩のニッコウキスゲ群落を目指す途中、多くのエゾカワラナデシコを見つけ、お客様からは「あ、ナデシコ、あそこにもナデシコ！」とサッカー日本女子代表「なでしこジャパン」の躍進と重なり、お客様の印象はニッコウキスゲに次いで強いようでした。

車山肩では、ニッコウキスゲの群生を見ながら、電気防鹿柵、ニホンジカの被食痕を紹介すると、「もっとシカを捕獲し、もっと食べるべき」などのご感想もきかれる和やかなツアーでした。

いわゆる「ニホンジカの食害」についてのお話を差し上げる際、ニホンジカの生育域拡大の原因をいくつか説明するなかで、その一つとして「気候の温暖化」を取り上げ、誰でもできるニホンジカの被食拡大防止対策が、実は地球温暖化防止の活動であることをお話しいたしました。

その時、あるお客様がおっしゃった「今年は事故もあり、今までの生活を振り返るべき時ですね。」というお言葉が印象的でした。

今年は東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故があり、復興と同時に、日本の将来を考えるべき時でもあるかと思います。

時には、草原の中で自然に触れながら、今までを振り返り、将来を想像することも大切だと思います。

今後の復興のヒントが霧ヶ峰の中にもあるような気がします。

(担当：小原宏文)



2011モニタリング調査・短信

2011年8月21日、前日の雨の後、モニタリング調査（植物相）を行いました。

印象に残ったことは4点です。

第一は、ツリガネニンジンを多く確認したことです。文字通り鈴なりをたくさん観察できました。

花には露も鈴なりにもみられました。

第二は、旧牧草地を対象とした調査区間で調査日前の降雨により草が倒伏したため、ニホンジカのけもの道がはっきりわかったことです。



第三は、露のついたクモの巣もたくさん見つけたことです。露がつくことによりクモの巣を発見しやすい日でした。実はクモもたくさんいることが改めて感じられ、生物が多様な証拠であると感じました。

以上、前日の降雨による収穫です。

そして第四は、一緒に調査を行った70代の会員さんのお言葉です。

「霧ヶ峰が国定公園になる前のお盆の頃、お仏壇に供える盆花を霧ヶ峰に摘みにきました。（談 摘んだ場所は強清水のあたりだそうです。）摘んだのは、女郎花（オミナエシ）、吾亦紅（ワレモコウ）、桔梗（キキョウ）。今日の調査では、オミナエシ、ワレモコウは記録できましたが、キキョウはやはり出てきませんね。今でもどこかで咲いているのかな。」

人生は八十年といいますが、この調査も、もし私が70代になった時、同行者に何を語ることになるのでしょうか。

出来れば、今と変わらない出現種の中で調査をしたいものです。



10月27日（土）7:00からも、植物相の調査を予定しております。

お手伝いいただける方はご連絡ください。

（担当：小原宏文）



諏訪市霧ヶ峰高原再生事業 雑木処理作業ボランティアのお誘い

今年も諏訪市主催による草原維持のための雑木処理作業が下記のように計画されています。

草原の中の伐採した樹木を運搬したり小さく裁断する作業を行います。

作業ボランティアを希望される方は、お名前、住所、電話番号を添えて、事務局までご連絡下さい。

多くの方のご参加をお待ちしています

作業日： 2011年10月22日（土） 小雨決行 予備日：2011年10月23日（日）

時間： 8:00～受付 8:30開会式

9:00作業開始 11:30作業終了予定

12:00合同昼食（主催者よりおにぎりの支給があります）

実施場所： 踊場湿原北斜面

集合場所： 小和田牧野組合さま管理地（詳細は参加者に個別に連絡いたします）

作業内容： 雑木の伐採、枝払い、玉切り

持ち物： 鎌、手袋、帽子、飲み物など

チェーンソー、刈払い機、ノコギリ、なた、ゴーグル（お持ちの方）

お申込み NPO法人霧ヶ峰基金事務局

電話 090-9668-3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

しめきり 2011年10月7日（金）

傷害保険をかける都合上、必ず事前の申し込みをお願いいたします。

酒屋さんたちと“福ひろい”



諏訪市内の5つの酒蔵（舞姫、麗人、横笛、本金、真澄）のみなさんは、毎年霧ヶ峰高原を歩きながら歩道沿いのゴミを拾う活動を続けています。

私たちもお手伝いしながら、今年で6回目を迎えました。

今年は7月2日に実施。ゴミの量は当初思ったほどでなく、うっかり落としてしまった飴の包装紙がほとんどで「あんまり（ゴミが）ないね」とほほ笑みながら、たくさんのつぼみをつけたニッコウキスゲやマツムシソウの葉の違いを楽しみながら歩きました。（担当：降旗香代子）



2011 新作ポストカード、発売中

オリジナルポストカードも全部で13種類となり、“AK48”のように総選挙はしませんが、一番人気「センター」は発売以来、相変わらず朝露にぬれるニッコウキスゲです。続いて、夕暮れ時のマツムシソウ、木漏れ日を浴びるエゾカワラナデシコと続きます。

今年は新しく「アカバナシモツケ」（右）と「コオニユリ」（左）が加わりました。

高原の店さま（強清水）、ころぼっくるひゅってさま（車山肩）、八島山荘さま（八島湿原）で販売をしております。店頭で実際にお手に取っていただければ幸いです。

お問い合わせは、NPO法人霧ヶ峰基金までお願いいたします。通信販売もしております。



寄付金をお寄せいただきました。ありがとうございます。

2011年7月1日～8月31日 合計 19,000円

松沢さま、山下さま（東京都）ほか

心からのご支援、誠にありがとうございます。エコツーリズムの普及啓発や保全事業などに役立てたいと思います。

活動記録（2011年7月1日～8月31日）

7月	2日	・諏訪五蔵「霧ヶ峰“福ひろい”ウォーク」ガイド
	9日	・モニタリング調査（植物相）
	17日	・個人ツアー催行
	23日	・会報2011年8・9月号発行
	24日	・委託ツアー催行
8月	31日	・「ちょうちょ図鑑」 催行中止
	5日	・ポストカード新作 新聞社取材対応
	13日	・情報収集、打ち合わせ
	27日	・御射山祭 参列 ・ポストカード新作 新聞社取材対応
	28日	・モニタリング調査（植物相・水環境）
	30日	・諏訪市霧ヶ峰高原草原再生事業 雑木処理会議出席

編集後記 草紅葉が楽しい季節。高い空にうろこ雲、銀色の光をまとって波のようにススキの穂が揺れます。長い冬を迎える前のほんのいつかの季節。のんびりと楽しみたいと思います。（か）

次号会報2011年12月・2012年1月号は11月下旬ころ発行予定です。